

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第83号

[2016年4月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

この度、平成28年（2016年）熊本地震で亡くなられた方々に哀悼の意を捧げますとともに、被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第83号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

メソトマンスリー

国内から

編集後記

次号の予定



メソトマンスリー

【メソト＝神谷 友子】



最近のメソット

毎年4月13～15日はタイやミャンマーでは旧正月でメータオ・クリニックも外来はお休みです。連休を取ってミャンマー国内の家族のもとへ帰郷するスタッフも少なくありません。もともとは仏像や年長者に水をかけてお清めをする意味合いがあったそうですが、一年で一番暑くなるこの時期に水を掛け合って多くの若い人たちがイベント的に楽しんでいるとのこと。メソトの街や国境沿いのモエイ川でも小さな子どもさんからご年配の方まで歌ったり、踊ったりしながら水を掛け合っていました。

<水かけ祭りの参考HP>

タイ→ <http://www.thailandtravel.or.jp/detail/event/?no=634>

ミャンマー→ <http://www.ajmmc.org/2012/04/post-455.html>



パレードの仏像に水をかける人たち



4月16日 メソト市内のソングラーンのパレード



看護トレーニングが始まりました!!

去る3月28日、メータオ・クリニックの旧外科病棟にて看護トレーニングの開会式がとり行われました。翌日から講義が始まっています。

参加しているのは、CHW(コミュニティヘルスワーカー)としてすでにメータオ・クリニックで勤務している1~6年目のスタッフ25名。毎週月曜日~金曜日までの週5日、毎日午前中の3時間の講義が16週間、7月末までの予定です。

「nurseの仕事とは何か?」という所から講義は始まり、患者さんの身の回りのお世話をしている、足を洗っている写真を見て「こんなことまでするの!!」と驚きの声。日本の看護師が日常的に行っている、体を清潔に保つ援助、食事介助、おむつ交換やトイレ介助などの排せつのお手伝いなどはスタッフの仕事であるとの認識があまりありません。1週目には、WHOの健康とは何か?という定義やマズローの基本的欲求について、コミュニケーションについての講義がありました。

また、手洗いについては皆すでにトレーニングを受けているのですが、手洗いを石鹸なしでササッと済ませていたり、必要なタイミングで手洗いできていなかったり。2週目には、感染に関してスタンダードプリコーションの考え方の講義や日本の企業のサラヤ様よりお借りしている手洗いチェッカーを使つての演習も行いました。手洗いチェッカーは、みんな驚いたり楽しみながら、汚れが消えるまで何回も手を洗ってもらいました。石鹸なしでは落ちない汚れがあること、爪の周りによく洗っても汚れが残りやすいことなど体験してもらえました。

2週目の後半には、看護計画についての講義。2月よりメータオ・クリニックでボランティアをしている助産師の藤原さんにお手伝い頂きました。事例患者Tomokoさんの情報をもとに、どんな問題があるのか、その問題を解決するためにはどのような看護援助を行ったらいいかをグループで話し合ってもらいました。どのグループも少しのアドバイスで意外にもしっかりした看護計画を立案できていたことに私も藤原さんも驚きました。

このトレーニングを通して、ナースの仕事は、与えられたメディクの治療のサポートだけではなく、患者さんの身の回りのお世話や感染管理などを責任感を持って、他職種とも協力しながら自主的に行えることであることを、まずは伝えていきたいと思っています。

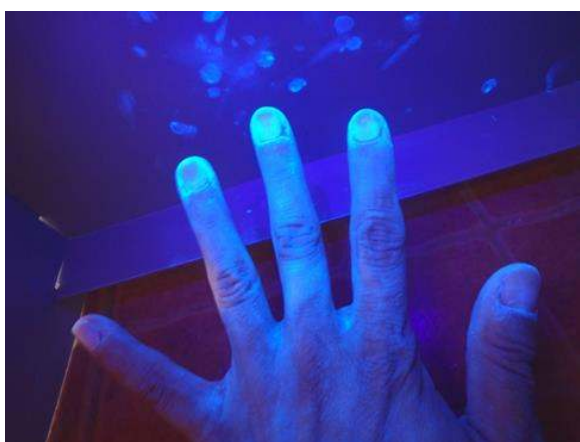


3月28日、第一期メータオ・クリニック看護トレーニングの開会式にて。これからみんなで看護の勉強していく仲間たちです。





4月6日、手洗いチェッカーで、自分の洗い残しのチェック！



手洗いチェッカーの中身はこんな感じです。手洗いの不十分な箇所が蛍光塗料のローションが残っている部分、ブラックライトで白く光っています。



4月8日、各グループで話し合った看護問題と看護計画を発表しています。
もともとは外科の処置室として使用していた部屋です。

きょうのゆめ

今回は、メータオ・クリニックの近くにある移民学校 Children's Development Centre (CDC校)の音楽クラブをこの3月に卒業した7人にお話を伺いました。

まず1人目は、音楽クラブの頼れるリーダー、Myat Min(ミヤットミン)くん19歳。音楽クラブには5年間在籍して、スネアドラムの他にトランペット、フルート、ギターも弾けます。なんでもできるので練習の時には、みんなの前に立っているいろんなパートを指導。1998年にメソトにきてからCDC校での勉強を始めました。将来はsocial science やpolitical scienceの勉強をして、地域開発の仕事につき住民の支援をしたい。今年は準備の年にして、来年学校を受験したいとのこと。

2人目は、在籍2年ピアノ担当のHai Mu Wah(ヘイムワ)ちゃん17歳。メソトにはいとこと一緒に暮らしていて、ミャンマーに他の家族は住んでいます。卒業後は、6年間タイ語の勉強をしてから(週に1回の学校で、この学校を出るとタイ政府無認可のCDC校出身の生徒でもタイの大学に入学する権利を得ることができるそうです)、タイの大学で経済の勉強をしたい。お金に興味があるから、経済的な面でみんなの助けになりたいとのこと。普段は私にも積極的に英語で話しかけてくれていましたが、自分の話となると恥ずかしがりやさんな女の子です。でも、村では勉強ができないからと、親元を離れて一人でメソトへ勉強に来ている、とても向学心があって情熱を感じました。

3人目は、在籍2年スネアドラム担当のShee Sho(シーショー)くん19歳。メソトには家族と一緒に暮らしています。卒業後は、Teacher Training College (TTC)という4年間の学校に進学することが決まっています。2年間のトレーニングと2年間のインターンシップを終了したら、CDC校に戻って社会科の先生になりたいとのこと。移民学校に通う生徒の何人かは、学校に通い続けるために親がサポートすることが困難な家庭もあるため、そんな生徒の役に立ちたいと話してくれました。

4人目は、在籍2年ベースドラム担当のMarshar(マーシャル)くん18歳。両親はメソトにいますが学校から自宅が離れているため、寮に住んでいます。お姉さんはカンボジアの大学を卒業後英語教師のアシスタントをしているそうです。自分はYouth Connect Programという6か月の職業訓練を受けて、就職するためにタイ語の勉強をしたい。何になりたいかはまだ分からないけど、3か月のトレーニングと3か月のインターンシップの中で仕事を見つけないとのこと。

5人目は、在籍2年スネアドラム担当のJack(ジャック)くん19歳。3月末の卒業式が終わると、在校生は5月半ばまで長い夏休みに入りますが、卒業後にまずはその期間に行われるトレーニングのお手伝いをする予定。そのあとは、ヘイムワちゃんと同じで、試験を受けて進学するための教育を6年間受けた後、チェンマイにある1年間のレスキューの学校に行きたい。そしての民間の会社に就職してメソトの人たちを助ける仕事をしたいと。

6人目は、在籍3年トランペットパートのリーダーをしていたDaniel(ダニエル)くん18歳。家族と一緒にメソトに住み、父親は工場勤務、3人の兄弟は結婚しています。進学して勉強をするためにはいくつかの方法があるので、複数のプログラムに応募してまずは生物学を勉強して、将来的には医師になって病気に苦しむ人を助ける仕事に就きたい。私がトランペットを吹くこともあって、ダニエルくんからは「先生、何かメッセージソングやマーチン



グの楽譜持ってない？」などと聞かれたり、卒業式などの CDC 校のイベントによく声をかけてくれたのも彼でした。

最後は、音楽クラブの取りまとめをしているもう一人のリーダー Khun Myo Thet (クンミョテック)くん23歳。卒業後はマーシャルくんと同じ6か月の職業訓練を受けて、タイ語や英語、などの生活するための技術を身に着けたら、大好きなバイクに関わる仕事に就きたい。音楽クラブの面倒を見ているデザイン先生の右腕的存在で、練習中のみんなの飲み物を準備したり、時には私をバイクの後ろに乗せて移動してくれたこともありました。

みんなにお話を聞いたのは、3月の最後の試験が終わった後の、音楽クラブでの卒業生を送る会の日。音楽クラブ出身のメソトで仕事をしている先輩数人もお祝いに駆けつけたり、後輩たちと一緒に輪になってバーベキューしたり、後輩たちへのメッセージをみんなの前でお話ししたり。音楽クラブの活動の中で、組織の中での役割分担とか、コミュニケーションの取り方とか、みんなで教え合ったり、助け合ったり。音楽だけでなく、社会で生活していく中で必要なことを学ぶ場でもありました。家族と離れて暮らす生徒にとっては大きな家族のような存在であったのかもしれませんが。ここでみんなと過ごして経験したことは、卒業生のみんなにとって大きな財産になると思います。JAM ではここ国境の地メソトで複雑な状況の中で暮らす移民のこどもたちの精神的なサポートとして、この音楽活動を支援しています。これからも、この音楽クラブの活動を支援し続けていきたいと改めて感じました。

今年も8月にタイの学校の生徒とミャンマー移民のこどもたちとの交流を目的とした音楽祭の開催をしようと話し合っています。日本のみなさまの暖かいサポートよろしくお願いたします。

卒業後、みんながそれぞれの場所で勉強や仕事ができますように。数年後、みんながどんな道に進んでいるのか・・・またどこかで会えますように。みんな頑張っってね！心より応援しています。



左から、ヘイムワちゃん、シーショーくん、マーシャルくん、神谷、クンミョテックくん、ジャックくん、ダニエルくん。



送別会にて。後輩の女の子に落書きされてます。みんな仲良し。



リーダーのミヤットミンくん(左)のスピーチ。



卒業式。みんな卒業おめでとう！



国内から

先月の会報でメータオクリニックを訪問いただいた皆さまとしてご紹介しました、高校生の吉澤りさ様より感想文をお寄せいただきましたのでご紹介します。

今回、現地に来ていただいて学んだこと、感じたことを今後の進路選択などに生かしてもらえると私たちもとてもうれしいです。



(↓以下、吉澤様の感想文です)

今回初めてメータオクリニックとミャンマー移民学校を案内していただいて、強く感じたことが三つありました。

一つ目は継続的な支援。私は現地を訪れるまで、一回ぼんと寄付をすれば相手側の助けになれるとただ漠然と思っていました。学校も、ただ建てれば力になれると思っていました。だから現地に行って、寄付が打ち切られてしまったから食事の配給をどうしようとか、学校を建ててもお金がなくてつぶれてしまったところがいくつもあるという話を聞いて当たり前前の現実に気づかされました。継続的な支援がどれほど大事か、よく分かりました。

二つ目は音楽の可能性。私は中学のときに吹奏楽部で打楽器をやっていました。音楽が大好きで、移民学校を案内していただいたときに日本の楽器がたくさんあることにとっても驚きました。難民の子どもたちは心にとっても深い傷をもっていて、その傷を少しでも癒せるように音楽をとりいれているという話を聞きました。音楽にはそんな力もあるんだなど、音楽の可能性を感じました。

三つ目は、幸せ。『ここにいると逆に分からなくなる。みんな笑顔だから。それでも服を見るとやっぱり汚れていたり、1枚しか持っていなかったりするんだよね。』と、ボランティアの方がふと口にしたのを聞いてとても考えさせられました。日本で普通に生活できている人たちが圧倒的に豊かなはずなのに、ぶすつとした顔で不平不満を言いながら毎日すごしてる人がとても多いような気がするのはなぜだろうなど。今回現地に行ったことで、改めて自分が、そして日本がどれほど恵まれた環境にいるのか感じさせられました。今の環境に感謝し、またいろんな人に広めたいと思います。

今回の訪問は本当に貴重な経験でした。たくさん学ぶこともあったし、考えさせられることもありました。細かく案内していただいて、本当にありがとうございました。

【東京＝淵上】

健やかな子どもたちの成長のために

JAMの設立当初からスタッフをさせていただいております、淵上と申します。
いつも皆様から温かいご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。

私は普段、埼玉県の自治体で保健師として働いています。地区担当制を採用しており、受け持った地域にお住まいの妊婦さんから乳幼児、成人・高齢者の方々、すべてを対象に訪問や健康相談などの保健活動を行っています。また、保健センターなどの会場で乳幼児健診や育児相談会、成人～高齢者向けの教室運営、地域住民と一緒にイベントの開催など、幅広い分野に携わっています。その中で、一番業務量が多く、個人的な関心も高いのが「母子保健」



の分野です。

TBS テレビのドラマ「コウノドリ」をご覧になられた方も多いのではないでしょうか？観ると毎回号泣してしまうので、家族の前では見られず、ひとりになれる時間を見つけてはコツコツ録画を見て、実はまだ最終回まで観終わっていないのですが、保健師として関わるお母さんたちが様々な葛藤を経て、出産、その後の入院生活をこんな風に過ごしてきたのかなと、とても参考になります。

初回は、妊婦健診未受診のいわゆる“飛び込み出産”をした母について取り上げられました。被虐待歴があり、未婚、経済的に逼迫している母への支援が退院後も必要なため、ソーシャルワーカーが「保健センターにも連絡しておきます」と医師に伝えていたシーンがありました。ドラマでは産まれた赤ちゃんは乳児院に保護されてしまいましたが、保健センターにはこのような退院後の育児支援が必要な家庭について、支援依頼の電話や連絡票が日々届きます。

その背景には、母に精神疾患の既往がある、望まない妊娠との発言があった、経済的に困っている、産後直後から育児不安を訴えている、子どもの発育発達に問題があるなど様々なケースがあります。中でも心配なのは、両親またはどちらかに被虐待歴がある場合です。すべてがそうとは限りませんが、被虐待歴のある親は自分の子にどう接したらいいのか悩むケースが多くあります。その結果、自分がされたように怒鳴ってしまったり、手を上げたり、逆に「よい親」になることに固執するあまり過度な躰に走って子どもを追い込んでしまう場合があります。その子育てのしにくさに寄り添い、親が背負った心の傷が子どもに連鎖していかないように丁寧な支援が必要です。しかし、親から「どうすればいい？」と相談のあることが実際は少なく、家庭という密室で起こる子育てにどれだけ関わることができるか、大変難しい支援です。

日本でも過酷な状況で生きている子どもたちがたくさんいると母子保健に携わり始めてからこの2年で痛感しました。メータオ・クリニックのあるタイ国境で生きる子どもたちの中にも幼くして両親と分かれて暮らす子ども、経済的に厳しく満足な食事や教育に恵まれない子どもたちが多くいます。

信頼できる大人がそばにいて守ってくれること、住む場所や食事に困らないでいられる環境、何かに脅えることなく、子どもが子どもらしくいられるよう整えることは国を問わず何よりも大切なことだと思います。そのためにできることを仕事として、また、ボランティアであるJAMの活動を通して、これからも続けていきたいと思っています。仕事の方は、まだ数年異動にならず、母子保健に携われることを祈りながら…

編集後記

この度、平成28年（2016年）熊本地震で亡くなられた方々に哀悼の意を捧げますとともに、被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当会の会員の方にも熊本をはじめ、九州にお住いの方々がおられますので気がかりです。私自身も、福岡にいた頃に熊本は新幹線ですぐに着くので何度も出かけました。現地の映像を見て被害の大きさに言葉も見つからず、何日も不安を抱えていらっしゃる皆様のお気持ちを考えるととても心が痛みます。

当会の運営スタッフは、医療職が多いので今後、各自の勤務先からの派遣で現地に支援に行く予定の者もいます。被災地の皆様が一日も早く日常を取り戻すことができるよう、各自ができることをがんばっていききたいと思っています。



次号の予定

次号は、5月中～下旬ごろ配信の予定です。
ホームページは、随時更新してまいりますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。支援の輪が広がっていけるよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年 【学生会員】1,825円/年 【法人会員】36,500円/年
当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。



NPO法人メータオ・クリニック支援の会 Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛てEメール：support@japanmaetao.org

ホームページアドレス：www.japanmaetao.org

フェイスブック：[Japan Association for Mae Tao Clinic \(JAM\)](#) で検索して下さい。

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。



